

ビオトープフォーラム in 仙台2024

- 私たちの豊かさは多様な生き物の棲む地球から -

実施報告書

日時：2024(令和6)年6月14日(金)13:00~17:00

場所：東北大学 青葉山新キャンパス 環境科学研究科

本館2階 大講義室(宮城県仙台市青葉区荒巻青葉468-1)

主催：特定非営利活動法人日本ビオトープ協会

共催：自然環境復元学会、東北環境パートナーシップオフィス(EPO 東北)

後援：環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、宮城県、仙台市、東北大学、東北学院大学、一般社団法人 日本造園建設業協会東北総支部・宮城県支部、一般社団法人 宮城県造園建設業協会、宮城県造園芸協同組合 順不同

フォーラム参加者 計 110 名

| | | | | | | | | |
|------------|----|---|--------|----|---|-------------|----|---|
| 官庁、共催・後援関係 | 17 | 名 | 環境団体関係 | 17 | 名 | 協会員・BA | 44 | 名 |
| 学生・学校関係者 | 8 | 名 | 一般 | 24 | 名 | ビオトープアドバイザー | | |

総括

本年度のフォーラムのテーマは、「私たちの豊かさは多様な生き物の棲む地球から」として開催いたしました。東北大学青葉山新キャンパスを会場に、充実した内容で盛会裏に開催することができました。

フォーラムの司会進行は金野徳子氏が務め、開会にあたり、久郷慎治会長よりご挨拶をし、総会、フォーラムが、宮城県・仙台市始め地元諸団体等のご協力により盛大に開催できること、また、ご講演いただきます先生方に謝意を表し、協会活動における会員の協力、顧問の先生方のご指導、関係各位のご理解ご支援に感謝の言葉を述べました。

また、開催にあたり諸官庁などのご後援をいただき、ご臨席いただきましたご来賓のお二方にご祝辞を頂戴いたしました。

宮城県環境生活部長、佐々木均様より、下記のお言葉をいただきました。

「ビオトープフォーラム in 仙台 2024」が本日ここ東北地方で開催されましたことをお祝い申し上げますとともに、皆様の御来県を心より歓迎いたします。

特定非営利活動法人日本ビオトープ協会は、1993年に全国の有志の方々によって設立されて以来、30年以上にわたり活動の幅を広げられ、現在は、法人個人150を超える会員が所属されていると伺っております。貴会が設立された当時は、社会経済活動が、自然環境への影響よりも重視される時代でありましたが、多様な生物との共生の空間としての「ビオトープ」の重要性をいち早く認識し、自ら創出されました。また、独自の人材育成制度により「ビオトープアドバイザー」をこれまで900人以上輩出するとともに、顕彰制度の構築などにより普及啓発に尽力されてきたことに対しまして、心より敬意を表します。

さて、宮城県は、山と海に囲まれるなど豊かな自然環境に恵まれ、広大な平野部には、多くの湖沼や田園が広がっており、特に県の北部には、冬季に10万羽を超えるマガンが飛来する伊豆沼・内沼を始め、4か所のラムサール条約登録湿地を有しています。経済成長に伴い失われた湿地もある中で、ラムサール条約登録湿地の伊豆沼・内沼や、仙台海浜に位置する蒲生干潟などでは、現在においても、関係者が協働しながら自然再生事業を継続しております。

このような中、2022年12月の生物多様性条約締約国会議において、生物多様性を回復の軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」実現のため、社会経済活動全体の変革を目指していくことが採択されましたが、宮城県においても、この理念の実現に向け「宮城県生物多様性地域戦略」の第2次改訂作業に取り組んでいるところであります。

昨今、社会生活の在り方が、自然との共生を軸に見直されていくことが求められておりますが、残された自然を保全するだけでなく、その創出に積極的に取り組まれている貴会の活動は、今後ますます重要性が高まるものと考えており、なお一層の御活躍を御期待申し上げます。

結びに、本日のフォーラムの御盛会をお祈り申し上げますとともに、「特定非営利活動法人日本ビオトープ協会」のますますの御発展、御来場の皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

仙台市環境局長、細井崇久様からのご祝辞では、下記のお言葉をいただきました。

本日ここに、多数の方々のご出席を得て「ビオトープフォーラム in 仙台 2024」が盛大に開催されますことに心からお祝いを申し上げます。

今回のフォーラムの副題「私たちの豊かさは多様な生き物の棲む地球から」にありますように、生態系サービスは私たちの暮らしの基盤となるものであり、その損失を止め回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の取り組みは、今や世界的な潮流となっております。こうした中、30年以上の長きに亘り、ビオトープ創生に関する研究、普及啓発、アドバイザーの育成等を通じ、自然との共生実現に尽力してこられた特定非営利活動法人日本ビオトープ協会の皆様の活動に深く敬意を表するとともに、その活躍の場は今後ますます広がっていくものと確信しているところでございます。

本市におきましても、「杜の都」の豊かな自然環境や生物多様性を大切に、その恵みが持続的に活かされるよう、積極的かつ先行的な取り組みを進めたいと考えており、令和5年度には市有地2か所において、国が新たに開始した「自然共生サイト」の認定を取得致しました。今年度は更に企業や個人など多様な主体による認定取得を支援するモデル事業などを開始しております。これらの取り組みにあたっては、日本ビオトープ協会関係者の方々より、専門的な知識や経験に基づく多大なるご協力をいただいているところであり、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

引き続き、「杜の都」を標榜する本市として、自然共生の取り組みの充実に努めてまいりますので、今後ともお力添えを賜れば幸いです。

結びに、本日ご臨席の皆様のご健勝とご活躍、日本ビオトープ協会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

第1部では、「第16回ビオトープ顕彰」表彰式が行われ、ビオトープ顕彰委員会委員長の鈴木邦雄先生からの審査報告と、表彰状授与が行われました。引き続き事例発表が行われ、「あさはた緑地ビオトープ」「仙台・みどりの杜ビオトープ」2件のそれぞれの地域性を生かした素晴らしい活動事例が紹介されました。（発表資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載、

顕彰講評・受賞紹介：協会WEBページにUP、協会誌54号（2024年8月発行）に掲載予定）

第2部では、東北大学大学院生命科学研究所統合生態研究室 近藤倫生先生による、「地域主導のネイチャーポジティブ実現に向けて」環境DNA観測網「ANEMONE」についてのご講演を頂きました。ANEMONEの観測網は生物多様性情報をデータベース化する産官学民連携での取り組みで世界に先駆けて東北大学が主催したプロジェクトで進めていること。自然と経済が対峙するのではなく、自然を回復させながら成長発展する真の自然共生社会の実現を目指す事が示唆されました。

基調講演は、国立環境研究所生物多様性領域室長の五箇公一先生による「これからの地球環境と私たちの暮らし」と題して、新たな自然共生社会を目指す内容で、我々がビオトープ活動を進める中で昆虫やウイルスの世界の動静などを通じて大きな示唆となるキーワードが次々と披露され改めて目から鱗の落ちるお話でありました。

特別講演は、協会顧問である自然環境復元学会会長、東北学院大学教授の平吹喜彦先生による、東日本大震災の大津波で大きな被害を受けた仙台市沿岸の自然環境復元について「仙台湾岸でよみがえるふるさとの自然」と題して震災以来取り組んで来られた海岸植生の再生と地域づくりなどの活動の実践をご披露頂き、翌日エクスカーションでの現地視察に理解を一層深めることとなりました。

（講演資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載）

閉会の辞は、佐竹副会長よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。

このビオトープフォーラムを通じて、改めて私たち協会活動の社会での位置づけについて考え、生物多様性、持続可能な自然環境の創出、そして人との共生を目指して、地域住民、産業界、行政、研究者など多様なパートナーとの連携で力強い活動を推進して行きたいと願っております。

別紙レジュメ資料集の通り、盛会にて終了いたしました

<後日、編集した映像を一部オンライン配信する予定。詳細は協会WEBページにUPいたします>

2024年7月吉日

「ピオトープフォーラム in 仙台 2024」の様子



会長挨拶



ご祝辞



顕彰報告



司会



講演



特別講演



閉会の辞

顕彰表彰式・事例発表の写真は、別紙、第16回顕彰報告・受賞紹介をご覧ください。

フォーラム2日目見学先の様子



関連講座・ポスター展の様子

